

岩船寺

岩船寺は、京都府木津川市の静かな山の中にあります。四方を山の樹林に囲まれ、境内では、春、夏には梅、椿、桜、睡蓮そして特にアジサイの花々が咲き誇ります。そのため「花の寺」として親しまれています。そこかしこに咲くアジサイは 30 種類以上 5000 株ほどあり、アジサイの名所として有名で、山門の扁額にもアジサイの花が彫られています。重要文化財である三重塔は、木立の丘の麓に位置するため、珍しいことに、塔を間近かつ上から眺めることができます。岩船寺の本尊は、3m 近い木像の阿弥陀如来で、もっとも古いものであると考えられています。

歴史

寺院の伝説によると、天皇の勅命により、仏教の教えを人々に広めたとして有名な行基によって、岩船寺は 729 年に創建されたと伝えられています。皇子の誕生を感謝した嵯峨天皇(786－842)により堂塔伽藍が整備され、813 年に岩船寺の名がつけられたと言われています。また最盛期には、約 1 キロ四方にわたって 39 坊の寺塔がありました。しかし不運にも、1221 年の兵火によりその全てを失ってしまいました。

1442 年、現在の三重塔は建立されました。本堂と本尊は、江戸時代（1603－1868）、当時日本を統治していた徳川家の寄進により修復されました。現在の本堂は、1966 年に再建されました。

宝物と芸術品

岩船寺には、本堂と境内に祀られた重要文化財がいくつかあります。よく知られているのは、本尊である 3 m 近い木像の阿弥陀如来（西方極楽浄土の仏様）、そして三重塔です。周辺地域は高品質の花崗岩で有名であるため、境内にも花崗岩できた多くの重要文化財が点在しています。5.5m の高さの石塔、またそれだけでなく寺伝によれば、奈良の有名な東大寺の僧侶の墓と伝えられているものもあります。